

# 国民年金保険料の収納業務を民間委託しています

日本年金機構では、市場化テスト事業（国民年金保険料が納め忘れとなっている方に対する電話・文書・戸別訪問による納付のご案内や免除など申請手続きの勧奨および保険料の収納業務を行う）を民間に委託しています。

また、市場化テストの受託事業者に対し、納付案内に必要な国民年金保険料の未納情報を提供していますが、「個人情報の保護に関する法律」や本事業に係る「委託契約書」などで、目的外使用や閲覧、漏えい、複写などを禁じるなど厳格な安全管理を義務付けています。

受託事業者の担当者は、保険料の納付書をお持ちの方に限り、保険料をお預かりして収納することができますが、納付書をお持ちでない方から現金をお預かりして領収書を発行することはありませんので、ご注意ください。

<受託事業者>

- 電話・文書案内 日立キャピタル債権回収（株）
- 訪問 日立キャピタル（株）
- ☎0120-211-725



## 教育委員会だより

### 絵本から学べること

絵本は、子どもが最初に出会う本です。絵本の中には、たくさんの疑似体験や追体験が詰まっています。子どもは、母親や父親を中心とした周りの大人たちに読み聞かせをしてもらいながら、絵本の魅力に浸り、言葉を学び、感性を磨き、創造力を豊かにしていきます。

とりわけ、絵本で読み聞かせる童話や昔話には、生きていく上での教訓となる内容がよく取り上げられています。「さるかに合戦」「泣いた赤オニ」などから、家族や友達を大切にすることを、「みにくいアヒルの子」や「一寸法師」などからは偏見を持たないで接していくことなど、生き方に関わることも学ぶことができます。

このように、幼児期までは身近なものであり成長に一役買っている絵本ですが、小学校に入学し学年が進むと、親も子も「絵本は幼い子のもの」という考えから、絵本から遠ざかっていく傾向にあります。しかし、大人でも感動できるものや学ぶことができる絵本もたくさん

あります。

例えば、松谷みよ子著・味戸ケイコ絵の「わたしのいもうと」という本があります。夢や希望を持って転居した姉妹。ところが、妹は言葉遣いが少し違うということで、同級生にからかわれ、家に閉じこもるようになります。そして一人の友達もできないまま、短い一生を終えてしまうというお話です。姉の視点から語るように書かれたこの本を読むと、日常の何気ない言動の中に、差別したり、相手を傷つけたりする要因があることについても考えることができます。

絵本は、文章と絵で心に訴えてきます。短い時間で読み切ることができ、作者の思いや考えが、絵からも伝わってくるのです。そこに描かれている物語は、自分たちの日常の出来事にもあてはまるものが多く、その人なりの生き方に関わる大切なことを学ぶことができるのではないのでしょうか。皆さんも「絵本」にもう一度出会ってみませんか。

